

平成30年7月豪雨に係る西予市災害廃棄物処理実行計画の概要

第1章 災害廃棄物処理実行計画策定の趣旨

○計画の目的

平成30年7月豪雨により西予市では、斜面崩壊等や河川の氾濫により甚大な被害が生じ、大量に発生した災害廃棄物について、適正かつ円滑・迅速な処理を行うための具体的な内容を定める。

○計画の位置付け

- ・現時点の災害廃棄物等の処理見込み量を基に、市一般廃棄物処理計画として策定
- ・本計画は、損壊家屋の解体撤去の進捗状況等を踏まえて、適宜必要な改定を行う。

第3章 災害廃棄物処理の基本的事項

○役割分担

- ・市が災害廃棄物の処理主体となる。
- ・県は、市が行う災害廃棄物の処理が円滑かつ迅速に進むよう、助言や調整を行う。

○基本的な考え方

- (1) 安全: 住民の衛生環境や安全を確保
- (2) スピード: 被災地の早期復旧・復興を目指し、迅速な災害廃棄物処理を行う。
- (3) 経済性: 適正な分別による処理コスト削減、地域の経済的復興を促進

○処理期限

令和元年9月の処理終了を目標とする。ただし、処理の進捗状況等を踏まえ、適宜見直す。

○処理方法

仮置場での選別・分別を徹底し、可能な限り再生利用と減量化を図り、埋立処分量を削減。市の民間施設での処理のほか、県内民間施設等の協力により広域処理を行う。

○財源

災害等廃棄物処理事業費補助金(環境省)活用

第2章 被災の状況と災害廃棄物の発生量

被災の状況(H31.2月末現在)

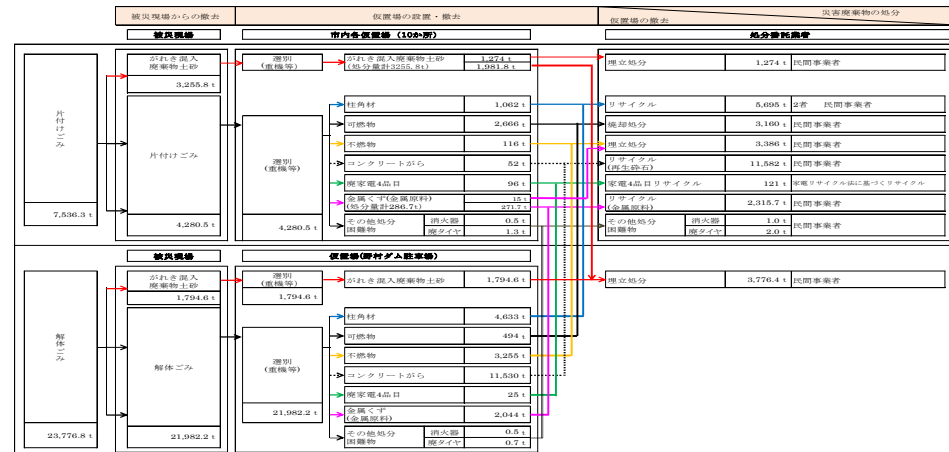
区分	棟数
全壊	127
半壊	274
一部損壊	27
床上浸	22
床下浸水	142
非住家(全壊)	595
計	1,187

災害廃棄物の発生量(R1.7末現在)

種類	発生量(推計)	備考
可燃物	3,160.0t	
不燃物	3,371.0t	
コンクリートがら	11,582.0t	
金属くず	2,330.7t	
柱角材	5,695.0t	
その他	124.0t	家電、処理困難物
計	26,262.7t	
がれき混じり土砂	5,050.4t	

第4章 災害廃棄物の処理フロー及び処理スケジュール

○処理フロー



○スケジュール

	平成30年						平成31年				令和元年				
	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
家財等ごみの搬出	←→														
建物解体				←→											
仮置場の設置	←→														
中間処理・最終処分	←→														